

3月25日正午必着

明石春浦先生書

一飯仍難受  
 淹留已半年  
 終期身可報  
 不擬骨空鑄  
 獨去塞鴻前  
 起如自棹  
 止危  
 城晚風高角  
 江春浪起船  
 會同棲止地

一飯仍難受  
城晚風高角

淹留已半年  
江春浪起船

終期身可報  
會同棲止地

不擬骨空鑄  
獨去塞鴻前

明石幸子書

芳草萌春時  
 深閉門  
 月明自伴  
 梅花宿  
 孔傳鐸

芳草萌春時 深閉門 月明自伴 梅花宿 (孔傳鐸)

香草萌える春の日に、深く門をとざしてくらし、月光  
明らかな夜はひとり梅花と共に寝るのである。



千里鶯啼綠映紅。水村山郭酒旗風。南朝四百八十寺。多少樓臺煙雨中 (杜牧)

杜牧詩江南春己亥姑洗上澣。書于。齋北(南)窓下□□

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

桃李爭妍 (貞守一)

桃李妍を争う。

妍は美しい。桃や李の花がその美を競う春景色。

烟柳半眠藏利臉  
雪梅含笑綻香唇

(韓 偓)

烟柳半ば眠りて利臉を藏し、  
雪梅笑いを含みて香唇を綻ばす。

利臉は葉光。春もまだ浅いころのことである。

江南旅懷 (祖 詠)

江南の旅懷 祖詠

楚山不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>極 歸客自蕭條

楚山 極む可からず 歸客 自ら蕭條たり

海色晴看<sub>レ</sub>雨 江聲夜聽<sub>レ</sub>潮

海色 晴れて雨を看 江聲 夜に潮を聴く

劍留<sub>二</sub>南斗<sub>一</sub>近 書寄<sub>二</sub>北風<sub>一</sub>遙

劍は南斗に留まりて近く 書は北風に寄せて遙かなり

爲報<sub>二</sub>空潭<sub>一</sub>橘 無媒<sub>レ</sub>寄<sub>二</sub>洛橋<sub>一</sub>

為に報ず 空潭の橘 洛橋に寄するに媒無し

水荳のふりにし筆の跡見ればいにしへ人は善く書きにけり (正岡 子規)

お詫び  
 玄和二月号 明石春浦先生の  
 自由参考手本で、最後の文字  
 「妍」が「研」となっており  
 ました。訂正してお詫び申し  
 上げます。

半紙部規定課題A

3月25日正午必着

名 関  
林 士  
        舊

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

3月25日正午必着

行書

開士舊  
名林

隸書

開士舊  
名林

明石春浦先生書

草書

開士舊  
名林

行草書

開士舊  
名林

徳高き上人、本来の姓は竺といひ、菩薩のごときお方、もとの名は林といふ。いつたん春山の中に行つておしまひになれば、数知れぬ峰々の奥、お尋ねすることもできません。新たなる年に、春のかぐわしい草があたりいちめん茂り、一日じゅう、白い雲は深くとざしこめる。ささやかな官職にこの身を捧げて行こうとしておりますが、この凡俗の心を奇妙に思つておられることが、ここからでもわかります。

寄「靈一上人」

劉長卿

高僧本姓竺

開士舊名林

一去春山裏

千峯不可尋

新年芳草遍

終日白雲深

欲徇微官去

懸知訝此心

靈一上人に寄す

劉長卿

高僧本姓は竺

開士旧名は林

一たび春山の裏に去り

千峯 尋ぬ可からず

新年 芳草遍く

終日 白雲深し

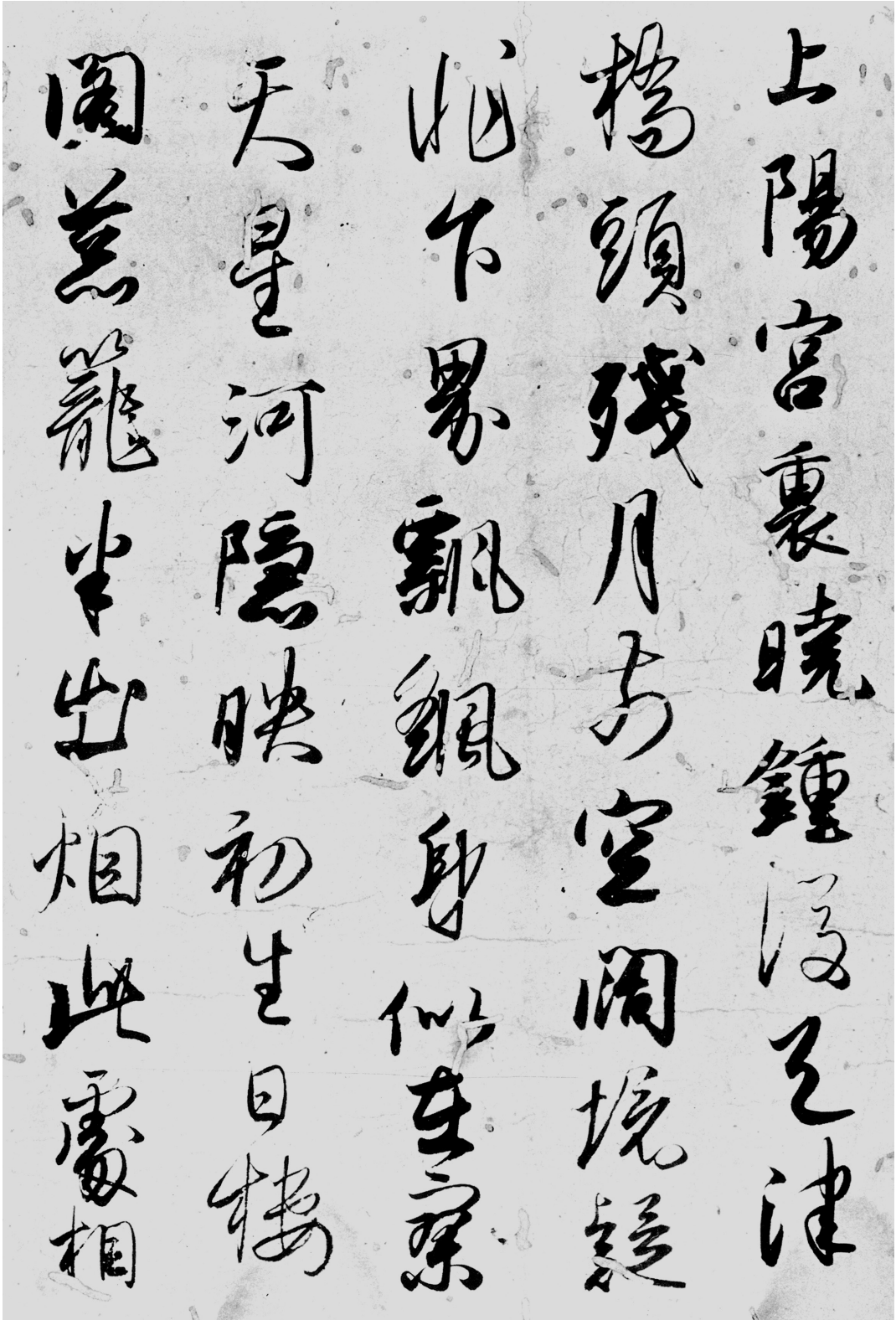
微官に徇つて去らんと欲す

懸かに知る 此の心を訝るを

(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より



上陽宮裏曉鐘（鐘）後 天津橋頭殘月前 空闊境疑非下界 飄飄身似在寥天 星河隱映初生日 樓閣窓籠半出烟 此處相  
 上陽宮裏、曉鐘の後、天津橋頭、殘月の前。空闊くして境は下界にあらざるかと疑われ、飄飄として身は寥天に在るに似たり。星  
 河隱映して初めて日を生じ、樓閣窓籠として半ば烟を出す。此の処に相（逢いて一酌を傾け）

上陽宮裏 曉鐘の後

上陽宮裏、曉（鐘の後）

上陽宮裏 曉鐘の後 天津橋頭 残月の前

上陽宮裏、曉鐘の後、天津橋頭、残月の前。空（闊くして境は下界にあらざるかと疑われ）

平安 藤原行成・白楽天詩卷

平安時代は、貴族の文化であり、従来の唐風文化から離れて国風文化へと移行していった時代でもあった。書の世界でも「三筆」の時代から「三蹟」（小野道風、藤原佐理、藤原行成）の時代へと唐風の書が優美典雅な和様書道へと変化していった。

藤原行成の父は一条摂政原伊尹の子義孝、母は醍醐源氏・中納言源保光女、生まれてすぐ伊尹の養子となるが、伊尹がその年に没し、父の義孝も行成三歳の時に没、以後は母と外祖父保光に育てられる。若い頃はかなり不遇で、出家も考えるほどだった。源俊賢が蔵人頭の後任に推挙してくれたことにより運が開け、出世するようになる。

書においては、優れた「手書き」で、世尊寺流の開祖として特別に尊重され、行成の書跡は「権跡」と呼ばれるようになる。

この白楽天詩卷は、中国・唐時代中期の詩人、白居易（白樂天 七七二〜八四六）の詩文集『白氏文集』から四篇の詩を揮毫したもので、百八十二行より成る。紙枚は十一紙、毎行十三、四字を前後する程度で、文字の大小も甚だしい変化を示していない。しかし、その一字一時のすがたはさすがに優雅端麗をつくし、平安時代の典型的な筆蹟となすべきものである。（春籠）

3月25日正午必着

教育部毛筆



雨宮春聲先生書

詩

集

中学一年



菅井松雲先生書

至

誠

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



はな  
花

その  
園

小学五年

榎戸春龍先生書



わか  
若

ば  
葉

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



3月25日正午必着



藤田幸春先生書

じ

ぶん

小学三年



細谷春誠先生書

つ

く

し

筆

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ほ ん 小学一年・幼年



森戸春濤書

ど て 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

あわてて勉強しても  
 焼け石に水だった

小学五年

木は土中の根で水分  
 や養分を吸収する

小学六年

光や熱などを外へ出  
 すことを放射という

中学

芸術は感情を最善のも  
 のに高める活動である

一般(級位)

谷川のうち出づる波も声たてつうぐひすさそへ  
 春の山風(藤原家隆)

たにがは  
 谷川のうち出づる波も  
 こゑ  
 声たてつうぐひすさそへ  
 はる  
 春の山風(藤原家隆)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。  
 また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

テ	ー	ブ	ル	の	上	に	一	輪
の	花	を	か	ぜ	り	ま	す	

小学四年

か	春	分	の	日	に	お	は
か	ま	い	り	に	い	く	

小学三年

山	に	は	ま	だ	雪	
が	の	こ	っ	て	い	る

小学二年

水	そ	う	の	な	か	で
お	よ	ぐ	さ	か	な	

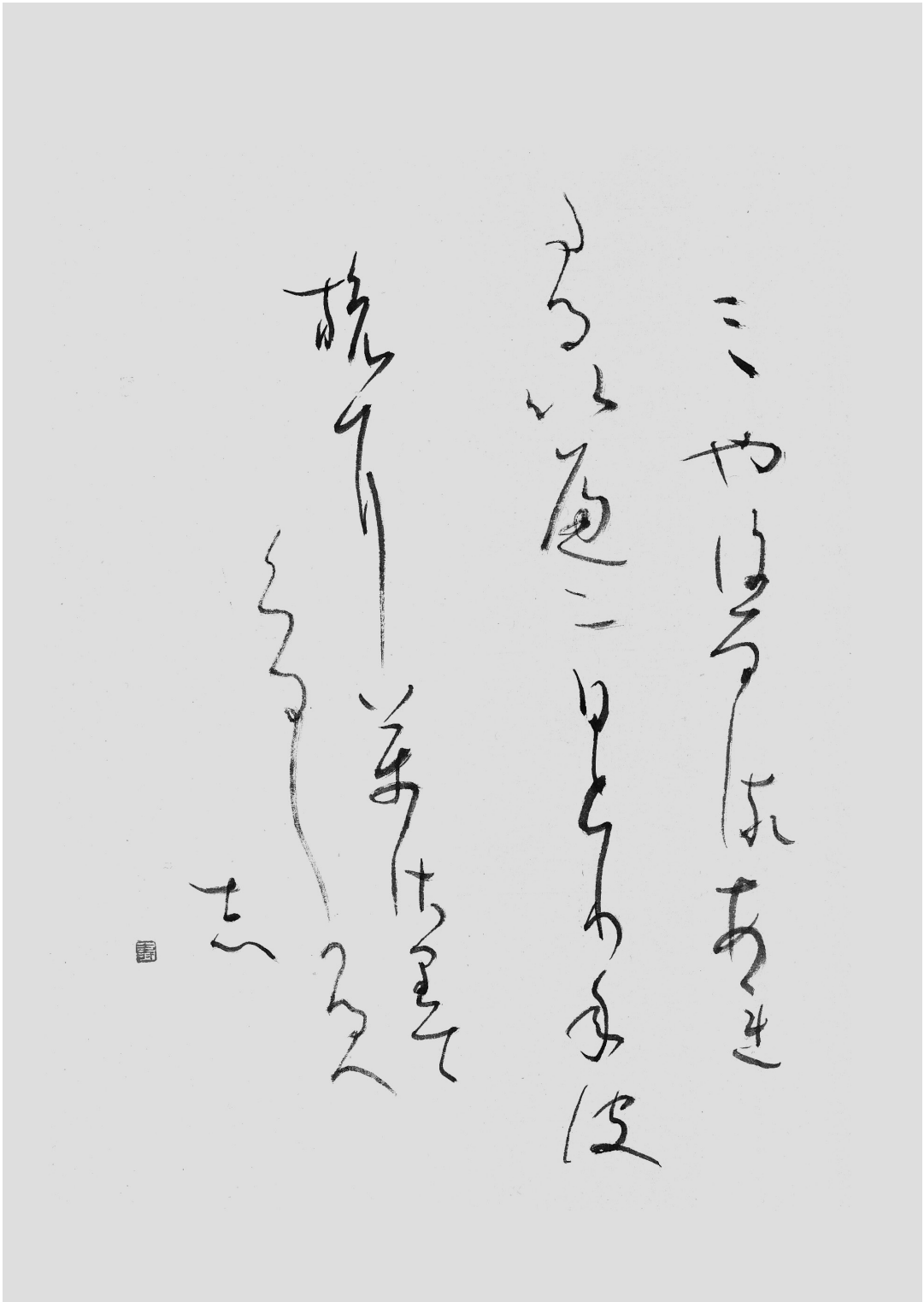
小学一年

う	ぐ	い	す	な	い
て	ひ	な	ま	つ	り

幼年

※お詫び…玄和二月号17ページ、幼年の手本で「ふくはうち」が「ふくわうち」となっておりまして。訂正してお詫び申し上げます。

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

三みやこなる  
許奈流

あれたるいへに  
連多以遍二

ひとりねば  
日利年波

旅にまさりて  
耳萬佐里

くるしかるべし  
久可志

(万葉集・大伴旅人)